

第 11 回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

令和 8 年 7 月 16 日（木）

午後 5 時 30 分から午後 7 時まで

会場：豊科公民館 2 階大会議室

次 第

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 新構成員 自己紹介

4 会議事項

- （1） 第 10 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ
- （2） 再編実施基本計画策定に向けて
- （3） 新校の学びのイメージに係る意見交換

5 その他

次回の予定

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関すること
- （2）校地・施設・設備等に関すること
- （3）管理運営等に関すること
- （4）教育内容等に関すること
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第11回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会構成員名簿

◎座長 ○新規 (敬称略)

	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	○渡辺 守	安曇野市	副市長
2		宮澤 達	池田町	副町長
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会	教育長
4		山崎 晃	池田町教育委員会	教育長
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会	会長
6		栗原 裕	J Aあづみ	総務開発事業部長
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会	事務局長
8		傳刀 勇	J A大北	総合企画管理課長
9	学識経験者	◎村松 浩幸	信州大学教育学部	教授
10	地域	斉藤 岳雄	有限会社 斉藤農園	専務取締役
11		石井 克則	黒田精工株式会社	専務取締役
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）	代表取締役
13		斎藤 政一郎	松本地域振興局	局長
14		○丸山 俊樹	北アルプス地域振興局	局長
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会	同窓会長
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会	同窓会長
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会	同窓会長
18	P T A	○林 明彦	南安曇農業高等学校 P T A	P T A会長
19		○都築 久美子	穂高商業高等学校生徒を支援する会	会長
20		○栗田 美子	池田工業高等学校 P T A	P T A会長
21		小松 公平	安曇野市 P T A連合会	顧問
22		小澤 誠一	大北 P T A連合会	会長代行
23	小中学校等 関係者	○原田 邦彦	安曇野市校長会（三郷小）	会長
24		○高山 俊彦	北安曇校長会（大町南部小）	会長
25		山岡 勝則	安曇支援学校	校長
26	再編対象校	佐藤 ふわり	南安曇農業高等学校	生徒会長
27		清水 廉	南安曇農業高等学校	生徒会副会長
28		○武藤 穰	南安曇農業高等学校	校長
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校	教職員
30		浅井 聖南	穂高商業高等学校	生徒会長
31		西山 揺渚	穂高商業高等学校	生徒会副会長
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校	校長
33		川上 忠志	穂高商業高等学校	教職員
34		曾根原 宏紀	池田工業高等学校	生徒会長
35		原田 大夢	池田工業高等学校	生徒会副会長
36		○江尻 一麻	池田工業高等学校	校長
37		西山 浩介	池田工業高等学校	教職員

【事務局】

学校名	氏 名（役職等）
南安曇農業高等学校	（教頭） 本山 義治
	（教職員） 今溝 秀雄、○赤沼 広志、○上松 文枝、○都筑 勝、矢野 良
穂高商業高等学校	（教頭） ○原 周一郎
	（教職員） 川上 忠志、有賀 詩織、木村 彩芽、○鈴木 賢二、○相馬 勇一
池田工業高等学校	（教頭）（全） 山口 秀樹、（定） 井貫 昇平
	（教職員） 西山 浩介、佐藤 仁、松井 一陽、○水上 綾子

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	○楯 和弘	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	○望月 ゆかり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	○宮澤 春菜	高校教育課 高校再編推進室	主事
	宮沢 悠太	学びの改革支援課 高校教育指導係	指導主事

第 10 回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ（案）

日 時	令和 8 年 2 月 19 日（木） 午後 5 時 30 分から午後 7 時		
場 所	安曇野市豊科交流学习センターきぼう 2 階 多目的交流ホール		
出 席 (敬称略)	宮澤 達、橋渡 勝也、山崎 晃、高嶋 雅俊(代理)、宇留賀勝巳(代理)、宮崎 鉄雄、 傳刀 勇、村松 浩幸、斉藤 岳雄、石井 克則、深澤 大輔、草間 英樹(代理)、山口 陽輔(代理)、 笠井 明、山崎 完好、宮澤 敏文、北川 昭一、小山恵梨香、臼井 慎詞、山岡 勝則、 佐藤ふわり、清水 廉、井出 敦、今溝 秀雄、浅井 聖南、西山 揺渚、三宅 浩一、川上 忠志、 曾根原宏紀、原田 大夢、藤田 洋子、西山 浩介 (以上 32 名)		
欠 席 (敬称略)	高橋 秀生、栗原 裕、斎藤政一郎、柳原 健、鷲澤 恒夫、 小松 公平、小澤 誠一、工藤 美恵、(以上 8 名)	傍聴	会場 15 名、報道 1 社、 オンライン 2 名
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、今溝教諭、加藤教諭、水谷教諭	
	穂高商業高校	橋本教頭、浅見教諭、有賀教諭、川上教諭、酒井教諭	
	池田工業高校	山口教頭(全)、井貫教頭(定)、西山教諭、松井教諭、矢原教諭	
	県教育委員会	百瀬参事、柳沢主幹指導主事、高橋主任指導主事、原（周）主任指導主事、 宮沢指導主事	
会議事項	(1) 第 9 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ (2) 今年度の検討状況と来年度の検討内容 (3) 池田工業高校定時制の紹介 (4) 安曇養護学校高等部あづみ野分教室の紹介 (5) 学びのイメージについて		
当日資料	・ 次第、開催要綱、構成員名簿、第 9 回懇話会まとめ、懇話会スケジュール資料、学びのイメージ関 連資料 ・ 会場配席図		

主な内容（⇒事務局）

会議事項

(1) 第 9 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ

○第 9 回懇話会まとめについて事務局から説明。【質問、意見なし】

(2) 今年度の検討状況と今後のスケジュール

○これまでの懇話会の開催経過について事務局から説明。

- ・今後、「育てたい生徒像」から「目指す自分像」へ、大人視点ではなく生徒主体の視点に立った表現に統一。
- ・令和 8 年度以降、具体的なカリキュラム（ポンチ絵の作成）や設置学科、校地・校舎の活用方法を含む「再編実施基本計画」の策定に入る。

【意見】

- ・「目指す自分像」に表現を変えることで、さらに時間がかかってしまう。これまで生徒たちの意見を中心にまとめてきている。議論を進めた方が良い。

⇒懇話会での議論が遅れることがないように検討を進めていく。

(3) 池田工業高校定時制普通科の紹介

○定時制井貫教頭より説明。

- ・全校生徒 22 人のうち、14 人が大北地域出身。
- ・「働きながら学ぶ」という従来のイメージとは異なり、現在は定職を持つ生徒はおらず、アルバイトに従事する生徒が中心。
- ・少人数で穏やかな雰囲気のため、不登校経験のある生徒でも安心して登校できている。
- ・30 年以上続く「陶芸教室」や、中庭の畑での「園芸作業（収穫祭）」、ボッチャを楽しむ球技大会など、体験的な活動を重視している。
- ・人間関係構築に必要な技術を身につけるソーシャルスキルトレーニング（SST）などを実施して、あいさつや感情コントロールなど、人間関係構築のスキルを養う。
- ・通常 4 年間の課程を、松本筑摩高校（通信制）との併修により 3 年間で卒業を可能にする「三修制」で卒業する生徒もいる。

【感想、質問、意見】

- ・家庭環境や生徒の特性が多様化して、定時制が果たす意義がこれまでと変わってきている中で、きめ細かく対応していて感心した。
- ・「三修制」は池田工業高校独自の取り組みなのか。他の定時制の高校でも導入されているのか。
⇒全国的にも県内の定時制でも取り入れている学校はある。
- ・現在は夜間定時制であるが、生徒の現状を踏まえて午後から授業を開始するなど、時間を早めても良いのではないかと。

(4) 安曇養護学校高等部あづみ野分教室の紹介

○山岡校長より校名変更について説明。

- ・児童生徒等の自立や社会参加に向けた支援という特別支援教育の考え方の理解促進、また地域におけるセンタ－的機能を有する学校であることを明確にするために、令和8年4月から「長野県安曇養護学校」から「長野県安曇支援学校」に校名を変更する。
- ・県内18校の県立特別支援学校のうち、14校の校名が「支援学校」に変わる。(盲学校、聾学校は変更しない)

○あづみ野分教室 林教諭より説明。

- ・特別支援学校の過密化解消、障がいの多様化への対応、および高校生との交流による仲間意識の醸成を目的として、平成22年に南安曇農業高校に高等部の分教室として開室。
- ・作業学習として、畑で育てた「藍」を用いた藍染製品や、糸ノコを使った木工製品を製作。協力店舗での常時販売も行う。
- ・現場実習として、1年次の校内実習(企業からの委託作業)を経て、2・3年次には実際の企業へ出向き、通勤から体調管理までを自分で行う実践的な訓練を積み重ねる。
- ・南農祭での製品販売や展示見学、収穫祭での会食等で南農の生徒と継続的な交流を行っている。さらに、地域住民を対象とした「藍染体験講座」で、生徒が講師を務めている。
- ・中学校で自己肯定感が低かった生徒たちが、同年代の高校生から刺激を受け、自信を深めながら卒業後の自立に向けて成長している。

【感想、質問、意見】

- ・入学当初は大人数が苦手だったり、コミュニケーションに課題を抱えていたりした生徒が、交流学习を通じて目に見えて成長している。
- ・南安曇農業高校として、今後も特別支援教育に関する相談や情報共有を行いながら、分教室との連携をさらに深めていきたい。

(5) 学びのイメージについて

【事務局から説明】

- ・前回の意見を受けた修正案(下線部が修正部分)

○育てたい生徒像(目指す自分像)

- ・自らを大切にし、高い倫理観を兼ね備えた心豊かな生徒…高い倫理観と心の豊かさの必要性を重視
- ・チャレンジ精神とコミュニケーション能力を備えた高い専門性をもつ生徒
- ・安曇野での学びをとおして、さまざまな課題解決に貢献できる生徒…地域の課題解決から修正

○目指す学校像

- ・横断的なかわりをとおして、好きやMIRAIを再発見できる学校
- ・MIRAIにチャレンジする学校
- ・地域とともにMIRAIを創造する学校

○学校の中身について

- ・これまでの意見交換を踏まえて、特色あるカリキュラムや学びの融合、魅力づくりに向けた具体的なアイデアを出していただき、事務局で内容を深めていきたい。

【意見】

- ・「さまざまな」課題解決とすることで広範囲に渡ることを表現しているが、ぼやけてしまう印象を受ける。
- ・卒業後の進路を考えると、地域課題の解決にこだわらなくても、いろいろな活動の選択肢を示す上では良い。
- ・MIRAIという表現について、なぜ漢字ではないかを明確にして、自分像にも反映してほしい。
- ・事務局での検討では、安曇野での課題解決をとおして養う力をさまざまな課題解決にいかしていくという意味を込めた。
- ・白馬高校では国際観光科を設置して全国募集を行い、生徒に来てもらおうとしている。安曇野新校も全国から期待して来てくれるような魅力のある学校になってもらいたい。
- ・さまざまな課題という抽象的な表現だけでなく、消防団の担い手不足や労働力不足などの具体的な課題を提示していくべきである。
- ・池田工業高校では、AI技術を含めた資格取得の継続、池工版デュアルシステムを基盤とした企業研修、専門性をさらに深めるための専攻科の設置、国際化に対応した「工業技術英語」の導入や海外研修に留まらない世界で通用する技術者の育成のカリキュラムを検討していきたい。
- ・穂高商業高校では、ビジネス探究システムに取り組んでいる。学年ごとに、ケースメソッド、PBL(問題解決型学習)、地域人教育HOTAKAなど、段階を踏んで取り組んでおり、生徒も自己成長に効果があると捉えている。安曇野新校でも取り入れて、地域に学びながら成長してほしい。
- ・「全校で農作物を育てる」という取り組みは、多様な生徒がいる中で、とても大切な教材になる。

その他

【次回懇話会】

- ・日時 未定 ・内容 学びのイメージ策定に向けた意見交換

○懇話会の目的

県教育委員会が、再編実施計画を策定するにあたり、対象校が所在する地域の意見を聴くため

○検討事項

Step1 学びのイメージ、設置課程・学科、募集学級数、募集開始年度

活用する校地・校舎 ➡ **「再編実施基本計画」**

Step2 学校教育目標、教育課程、施設・設備、校名、校歌・校章 など

○開催期間

新校が開校するまで



安曇野総合技術新校(仮称)再編実施基本計画(案)

- 1 再編統合対象校
南安曇農業高等学校(全日制)、穂高商業高等学校(全日制)、池田工業高等学校(全日制・定時制) ※旧第12通学区内の定時制配置のあり方は校地検討と併せて検討する
- 2 募集開始(開校)年度
令和____年度
- 3 活用する校地・校舎
()
- 4 設置課程・学科及び想定する募集学級数
() 制課程 () 科

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。
※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。
- 5 統合新校の学びのイメージ
(別紙のとおり)
- 6 施設整備
・新校の学びに必要な施設を整備するとともに、既存施設の著しい老朽化と社会や学びの変化を踏まえ質的向上を図っていく。
・施設整備に要する期間は ____年程度を想定。

再編実施 基本計画の例



懇話会検討事項

【Step1】再編実施基本計画策定

- ・ 学びのイメージ 現在
- ・ 設置課程・学科
- ・ 募集学級数
- ・ 募集開始年度
- ・ 活用する校地・校舎

【Step2】

- ・ 学校教育目標
- ・ 教育課程
- ・ 施設・設備
- ・ 校名
- ・ 校歌・校章 など



学びのイメージ 検討手順

◎育てたい生徒像・目指す学校像

第4回～第6回：地域産業界からの提言
第7回・第8回：全国の先行学校の講演
第8回・第9回：育てたい生徒像や学校像の提案

◎共通理解

第1回：懇話会の趣旨説明
第2回：全国の先行事例の講演
第3回：3校の学びの紹介

◎新しい学校の中身

【学びのイメージ】 第9回～

- ・ 特色あるカリキュラム
- ・ 学びの融合
- ・ 魅力づくり など

◎新しい学校の形

【学校の形の具体化】

- ・ 設置課程、学科及び開校時に想定する募集学級数
- ・ 募集開始（開校）年度
- ・ 活用する校地、校舎 など

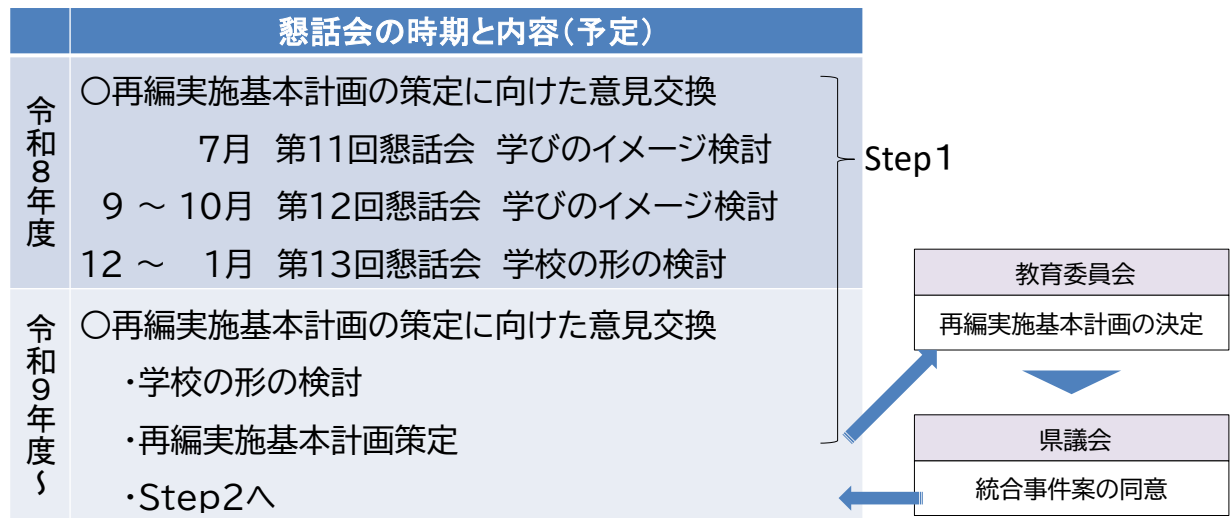
再編実施
基本計画
策定

【懇話会事務局 検討方法】

「学びのイメージ（キーワード）」⇒「育てたい生徒像」⇒「目指す学校像」⇒「学校の中身」⇒「学校の形」
（目指す自分像）

※再編実施基本計画策定後も新校が開校するまで懇話会は開催します。





地域と共に歩む、M I R A I を切り拓く総合技術高校

■目指す学校像

- ・横断的なかわりをおして、好きやM I R A I を再発見できる学校
- ・M I R A I にチャレンジする学校
- ・地域とともにM I R A I を創造する学校

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| Mastery（習熟、達成感） | … 専門性を深め、確かな技術と自信を得る。 |
| Innovation（革新、創造） | … 既存の枠組みにとらわれず、新しい価値を生み出す。 |
| Respect（尊重、思いやり） | … 他者と地域を敬い、協働の精神を育む。 |
| Achievement（達成、成功体験） | … 小さな挑戦を積み重ね、自らを高める。 |
| Inclusion（多様性を受け入れる） | … 異なる背景や価値観を力に変える。 |

■目指す自分像

- ・自らを大切に、豊かな心と高い倫理観を兼ね備えた自分
- ・チャレンジ精神とコミュニケーション能力を持ち、高い専門性を追求する自分
- ・安曇野での学びをおして、さまざまな課題解決に貢献できる自分

総合技術高校としての進化

学科共通の活動・取組み・仕組み

各科専門性の深化

農業科

- ・生命や自然から学び、自らの生き方を見つめ直す
- ・卒論（探究学習）や資格取得への積極的な挑戦
- ・伝統と最新技術で、地域の未来を拓く学び

工業科

- ・伝統的な職人技から最新のデジタル技術までを学ぶ創造的なものづくり
- ・将来に役立つ各種資格取得への積極的な挑戦
- ・広域デュアルシステムの推進

商業科

- ・対話を通して他者を理解し、思考を深める。
- ・企業と協働し、ビジネスに関する知識、技術を活かして課題解決に挑む。
- ・地域で新たな価値を生み、広げる。

第 11 回安曇野総合技術新校再編実施計画懇話会 新校の学びのイメージに係る意見交換（グループワーク）

テーマ 学科共通の活動・取組み・仕組みを具体化する

総合技術高校としての進化

共通の学びに関するご意見
（第6回懇話会より）

学科共通の具体的な活動・取組み・仕組み

■学科連携

- ・他の専門科目も学べる環境があるといい
- ・他学科の力を借りるなどの関わり合い
- ・融合した科目
- ・将来、経営者になれる学び

（例）2・3年次総合選択制により他学科の専門科目選択が可能

■地域をフィールドとした学び

- ・地域や社会の人たちと関わり合いながら学ぶ
- ・安曇野にこだわった学び
- ・最先端の設備がなければ、企業と連携する
- ・地域の魅力に気付かせる
- ・学びの安曇野ブランド

■非認知能力の育成 ※「非認知能力」＝意欲、協調性、忍耐力、自己肯定感など数値ではかりづらい力

- ・人物の育成
- ・やる気があり素直な生徒
- ・心を育てることも大切
- ・粘り強く挑戦し、学び続ける